

令和4年度学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス 講座仙台学2023  
 -仙台に関する講座- 開講科目概要

開講日時 (全て土曜日)		講座名 ◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
1月21日	10:30 ~ 12:00	藩政時代仙台領の郷土出版史 ~日本の出版文化史から~ ◎渡邊 洋一 (わたなべ よういち)	藩政時代の出版は江戸・京都・大坂の三都の書肆(しよし=現代の出版社兼本屋)を中心に展開されたとされており、加えて名古屋・金沢・水戸等の10箇所(城下町)でも盛んに行われていましたが、ここ仙台においても先の三都に匹敵する活動がありました。 今回は、そうした藩政時代の仙台の出版文化について現存する資料を通じて紐解いていきます。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大学
1月21日	13:30 ~ 15:00	戦中戦後の学校給食 仙台編 ◎氏家 幸子 (うじいえ ゆきこ)	仙台市は昭和初期から学童の身体測定を実施し健康教育に熱心に取り組んできており、戦前から戦中にかけて給食を実施してきた学校もあります。 さらに戦後はユニセフのミルク給食のモデル校となった学校もあり、島野市長の健康都市宣言のもと、先進的な学校給食を実施していました。 本講座では、資料並びに、当時の栄養士や調理師、児童として体験をした人たちへの聞き取りをもとに、その実際について明らかにし、現代の学校給食の土台に迫ります。	無料	30名 (先着)	仙台白百合女子大学
2月4日	10:30 ~ 12:00	仙台の長町・富沢界隈の地名と災害 ◎佐藤 健 (さとう たけし)	民俗学者の柳田國男は、「人と土地との交渉が即ち地名である」と述べています。また、「地名には、その地に起きた災害の歴史や特徴を、現在に伝えるメッセージが隠されていることがある」とした内閣府の政府広報もあるほどです。しかし、最近では小字のようなごく狭いエリアの地名は急激な勢いで消滅していっています。そこで、仙台の長町・富沢界隈を例に、「地名」と災害との関係性の議論にいざないます。	無料	30名 (先着)	東北大学